

最新必携
獸醫綜典

農學博士

板垣四郎編

最新必携
獸醫綜典

農學博士
板垣四郎編

朝倉書店

昭和二十六年七月二十五日 初版発行
昭和三十年九月二十日 五版発行

最新 獸醫 綜典

定價 五八〇圓

編纂者 板垣 四郎

發行者 東京都千代田區神田錦町一ノ十
朝倉 鑲造

印刷者 東京都中央區京橋三ノ二片倉ビル
伊藤 兼二

發行所 東京都千代田區神田錦町一ノ十
株式會社 朝倉書店

電話東京(29)自一九五二番
至一九五五番
振替東京八六七三番

序

拾有餘年の戦時鎖國から目覺めた我が國の獸醫學界も漸く立ち直りの態勢をととのえ、世界的近代醫學の急速な進歩を消化して研究分野も廣範圍となり、從來の醫學概念では到底吾々獸醫學徒は満足することが出来なくなつた。本書編纂の根本理由は實にこゝにあつたのである。

本書の特徴を挙げると、治療及び診斷編で使用する醫藥品は現代醫學とマッチする最新優秀の藥劑を採用し、その化學的療法の概念を平易明解を旨として詳述した。特に家畜人工授精、繁殖障害、獸醫公衆衛生並びに獸醫環境衛生等の科學的技術は近代獸醫師の生命とする素養なので、出来得る限り理論と實際を挙げ懇切丁寧に記述した心算である。

因みに本書執筆の諸氏は新進氣鋭の専門學徒で、日常編者と研究を共にする人達である。終りに臨みその氏名を舉げて本書刊行の欣びを分かちたいと思う。

片江正巳、桑原志都夫、大川徳太郎、小堀進、宮入一雄、常包正、谷口守男

昭和二十六年七月

世田谷の寓居にて

板垣四郎

編 纂

麻布獸醫科大學學長・日本大學教授
前東京大學教授・農學博士

板垣四郎

執 筆

浪速大學教授	片江正巳
日本大學助教授	桑原志都夫
岐阜大學講師	大川德太郎
日本大學助教授	小堀進
農林省家畜衛生試驗場技官	宮入一雄
農林省家畜衛生試驗場技官	常包正
日本大學講師	谷口守男

目次

治療編

第一章 藥物療法 (桑原志都夫)

第一節 注射療法

第一 皮下注射

一、皮下注射の長所

二、皮下注射の術式

三、皮下注射薬

- (一) 強心剤
- (二) 止血剤
- (三) 栄養強心剤
- (四) 鎮痛鎮痙剤
- (五) 腸蠕動亢進剤

第二 靜脉内注射

一、靜脉内注射法

二、注射術式

三、靜脉内注射薬

目次

第三 筋肉注射

一、筋肉注射法

二、筋肉注射薬

- (一) 強心剤
- (二) 止血剤
- (三) 變質剤、強壯剤
- (四) 解毒剤、中和剤
- (五) 利尿剤
- (六) 殺菌剤、消毒剤
- (七) アンチモン剤

- (一) 非特異性抗原注射剤
- (二) キニーネ製剤
- (三) スルファミン剤
- (四) 水銀製剤
- (五) ベニシリン剤
- (六) 鎮痛剤

第二節 内服療法

第一 投薬法

第二 内服薬

一、循環器系に作用する藥物

- (一) 循環器系の適用法
- (二) 真正強心剤
- (三) 中樞興奮性強心剤

目次

二、利尿剤	二四
(一) 腎臓性利尿剤	(二) 心臓血管性利尿剤
(二) 腎臓外性利尿剤	
三、止血剤	二六
(一) 全身止血剤	(二) 局所止血剤
四、下剤	三三
(一) 油脂性下剤	(二) 塩類下剤
(二) 催痢性樹脂	(二) 迷走神経末梢興奮性下剤
(二) アントラツェン誘導体	
五、止瀉剤	三三
(一) 收斂剤	(二) 植物性止瀉剤
(二) 吸着剤	(二) 腸蠕動抑制剤
(二) 粘漿剤	
六、胃に作用する藥物	三九
(一) 植物性健胃剤	(二) 消化酵素剤
(二) 酸剤	(二) 乳酸菌製剤
(二) アルカリ剤	(二) 酵母剤
七、吐剤	四三
八、鎮吐剤	四三
(一) 中枢性鎮吐剤	(二) 末梢性鎮吐剤

九、去痰剤	四四
(一) 溶解性去痰剤	(二) 緩和性去痰剤
(二) 悪心性去痰剤	(二) 刺激性去痰剤
一〇、造血剤(補血剤)	四九
一一、変質剤	五〇
一二、驅虫剤	五三
一三、鎮痛、鎮痙、鎮靜剤	五七
(一) 鎮痛剤	(二) 鎮靜剤
(二) 鎮痙剤	
一四、麻醉剤	六〇
(一) 脂肪族麻醉剤	(二) 吸入麻醉剤
(二) アルカロイド族麻醉剤	(二) 静脈用麻醉剤
(二) 造塩素属麻醉剤	
一五、眼剤(催眠剤)	六三
(一) 皮質性催眠剤	(二) 視床性催眠剤
一六、局所麻醉剤	六五
(一) コカイン系及びニコチン代用藥	(二) ツトカイン系
(二) プロカイン系	(二) オイカイン系
(二) ストバイン系	
一七、解熱剤	六八

- (一) アンチピリン類
- (二) フェナセチン類
- (三) アニリン類
- (四) サリチル酸類
- (五) キニーネ類

一、自律神経系に作用する薬物……………七

- (一) 交感神経興奮剤
- (二) 交感神経麻痺剤
- (三) 副交感神経興奮剤
- (四) 副交感神経麻痺剤
- (五) 神経節を興奮、後に麻痺する薬剤

第三節 外用薬……………六

- 一、電法剤……………六
- 二、撒布剤……………六
- 三、塗布剤……………六
- (一) 液状塗布剤
- (二) 軟膏
- (三) 泥膏

四、防腐、消毒剤……………六

- (一) ハロゲン化合物
- (二) 異性環状化合物
- (三) 金属化合物
- (四) 酸化剤
- (五) フェノール類
- (六) アルコール類
- (七) ホルマリン類
- (八) 安息香酸類
- (九) 硼酸類

第二章 化学療法 (小堀 進)

目次

第一節 化学療法の概念……………八

- 一、化学療法及び化学療法剤……………八
- 二、化学療法の対象となる疾病……………八
- 三、化学療法剤の宿主体内における作用……………八
- 四、化学療法剤の選択作用……………八
- 五、化学療法係数……………八
- 六、完全滅芽と完全治癒……………九
- 七、病原体の薬剤耐性……………九
- 八、化学療法剤応用の種類……………九
- (一) 強力滅芽療法と間歇
- (二) 併用療法
- (三) 予防的応用

九、化学療法剤応用上の二、三について……………九

- (一) 適応症
- (二) 禁忌
- (三) 副作用
- (四) 動物の種類
- (五) 適用部位
- (六) 対症療法との関係

第二節 病原体の種類と

化学療法剤……………九

- 一、細菌性疾患と化学療法剤……………九
- 二、ウイルス性疾患、リケツチア性疾患と化学療法剤……………九

目次

三、原虫性疾患、スピロヘータ性疾患と化学療法剤	六六
四、寄生虫病と化学療法剤	七〇
(一) フェノール誘導体	(四) ナフタリン誘導体
(二) ビベリジン誘導体	(五) その他
(三) フロログルシン誘導体	
第三節 主な化学療法剤	六六
一、サルファ剤	六六
(一) 分類	(四) 使用法及び使用上の注意
(二) 吸収及び排泄	(五) 副作用
(三) 適応症	(六) 主なサルファ剤
二、ペニシリン	二〇
(一) 性状	(四) ペニシリンに感受性ある病原体
(二) 単位	(五) 用法
(三) 吸収及び排泄	(六) 主なペニシリン製剤
(四) ペニシリンの作用及び毒性	
三、その他の抗生物質	二七
(一) ストレプトマイシン	(二) オーレオマイシン

四

(一) クロロマイセチン	(四) ネオマイシン
(二) パシトラシン	(五) テラマイレン
四、フラン誘導体	二五
五、アンチモン剤	二六
(一) 金属アンチモン	(二) フェニルスチピン
(三) 無機アンチモン化合物	(四) その他アンチモン化合物
(五) 有機アンチモン錯塩	
第三章 注射薬の製法及び薬品滅菌法 (小堀 進)	
第一節 注射薬の製法	一〇
一、溶媒	一〇
(一) 蒸留水	(二) その他の溶媒
二、保護剤及び防腐剤	一一
三、薬液の製法	一二
(一) 主薬の濃度	(二) 等張性溶液の製法
(二) 注射液のpH	
四、薬液の濾過法	一三
五、容器	一四
六、注射薬の滅菌	一五

七、注射薬液の試験……………一五

八、注射薬の製法の例……………一五

(一) アクリノール及びア
クタフラビン (四) 重炭酸ソーダ

(二) 安息香酸ソーダカフ
エイン (四) 葡萄糖

(三) 塩酸キニーネ……………一五

第二節 薬品の滅菌法……………一五

第四章 臓器療法、ビタミン療法

(桑原志都夫)

第一節 臓器療法……………一五

一、下垂体前葉ホルモン……………一五

(一) 成長ホルモン (四) 脂肪代謝ホルモン

(二) 向甲状腺ホルモン (六) 上皮小体刺激ホル
モン

(三) 向腎上体ホルモン (四) 生殖腺刺激ホル
モン

(四) 向脾臓ホルモン (六) 催乳ホルモン

二、下垂体後葉ホルモン……………一五

目次

三、甲状腺ホルモン……………一五

四、脾臓ホルモン……………一五

五、腎上体ホルモン……………一五

(一) 腎上体皮質ホルモン (二) 腎上体髄質ホル
モン

六、性ホルモン……………一五

(一) 男性ホルモン (二) 家畜に於ける性
ホルモンの応用

(二) 女性ホルモン

七、心臓ホルモン……………一五

八、脾臓ホルモン……………一五

九、肝臓ホルモン……………一五

第二節 ビタミン療法……………一五

一、ビタミンA……………一五

二、ビタミンB₁……………一五

三、ビタミンB₂複合体……………一五

(一) ビタミンB₂ (四) ビタミンB₆

(二) ビタミンB₃ (四) ビタミンB₆

(三) ビタミンB₄ (四) ビタミンB₆

四、ビタミンC……………一五

五、ビタミンD……………一五

五

六、ビタミンE	一五五
七、ビタミンH	一五五
八、ビタミンK	一五六
九、ビタミンL	一五六
一〇、ビタミンP	一五六

第五章 免疫療法 (小堀 進)

第一節 ワクチン療法

一、ワクチン療法	一五七
二、ワクチンの治療的作用	一五七
三、治療に用いられるワクチンの種類	一五八
四、ワクチン療法の副作用	一五九
五、ワクチン注射による陰性期	一五九

第二節 血清療法

一、血清療法	一五九
二、免疫血清の種類	一五九
三、恢復期患畜血清	一六〇
四、免疫血清の効果	一六〇
五、二、三疾病の血清療法	一六一
(一) 破傷風の血清療法	
(二) 豚丹毒の血清療法	

(三) 豚コレラの血清療法	(四) インフルエンザの血清療法
(四) 犬チフスの血清療法	(五) 犬のジステンパーの血清療法

第三節 自家血(清)療法

第四節 血清病

一、初回注射時における症状	一六五
二、再注射時における症状	一六五
三、即時反応	一六六
四、促進反応	一六七
五、血清病の予防	一六七
六、特異体質	一六七
七、ワクチン注射による急死	一六八
八、抗ヒスタミン剤	一六八

第六章 刺戟療法 (小堀 進)

第一節 刺戟療法

一、刺戟療法	一七〇
二、刺戟療法剤の作用	一七〇
三、刺戟療法剤の反応	一七二
四、応用部位	一七三

五、適応症	一七
六、刺戟療法剤の種類	一七
七、刺戟療法剤と化学療法剤の相違	一七
八、併用療法	一七
第二節 コンムニン	一七
一、コンムニンとは何か	一七
二、治効作用	一七
三、適応症	一七
四、使用法	一七
五、コンムニン応用時の治療的経過	一七
(一) 全身所見	
(二) 炎症局所の所見	
六、副作用	一七
第三節 虹波系感光色素	一七
一、虹波系感光色素	一七
二、生体内における作用	一七
三、適応症	一七
四、使用法	一七
第七章 理学療法	(桑原志都夫)
第一節 水治療法	一七

一、寒 冷 浴	一八
二、薬 浴	一八
三、電 法	一八
(一) 冷電法	
(二) 温電法	
(三) 刺戟性藥物電法	
(四) フリースニッツ電法	
第二節 温熱療法	一八
第三節 紫外線療法	一八
第四節 日光療法	一八
第五節 レントゲン療法	一八
第八章 栄養療法	(大川徳太郎)
第一節 栄 養 素	一八
一、無機物	一八
二、蛋白質	一八
三、脂 肪	一八
四、炭水化物	一八
五、ビタミン	一八
第二節 栄養素の供給量 による変化	一八

- (一) 絶食の場合
- (二) 栄養素の充分な場合
- (三) 栄養素の不充分な場合

第九章 應急療法 (大川・桑原)

第一節 中毒と解毒……………一九

- (一) 器械的解毒法
- (二) 化学的解毒薬
- (三) 生體的解毒薬
- (四) 主な解毒剤

第二節 出血の療法……………一九二

- (一) 急性性出血の療法
- (二) 鼻出血の療法
- (三) 腸出血の療法
- (四) 肺出血の療法

第三節 呼吸困難の療法……………一九二

- (一) 氣道性呼吸困難
- (二) 肺性呼吸困難
- (三) 心臓性呼吸困難
- (四) 脳性呼吸困難
- (五) 代謝異常性呼吸困難
- (六) 中毒性呼吸困難

診断編

第一章 傳染病の診断 (宮入・一雄)

第一節 総則……………一四

第二節 臨床検査……………一五

一、稟告……………一五

二、傳染病の發生……………一六

三、傳染の経路……………一七

- (一) 直接伝染
- (二) 間接伝染

四、潜伏期……………一九

- (一) 牛関係
- (二) 豚関係
- (三) 馬関係
- (四) 犬関係
- (五) 羊(山羊)関係
- (六) 鶏関係

- (一) 乳房
- (二) 視覚器
- (三) 運動器特に関節、骨

五、臨床症候……………二〇

- (一) 視診により
- (二) 検温により
- (三) 皮膚
- (四) 結膜
- (五) 鼻粘膜
- (六) 口腔粘膜
- (七) 肛門
- (八) 外陰部

- (一) 呼吸器障害を主徴とする伝染病
- (二) 消化器障害を主徴とする伝染病
- (三) 神経系統を侵す伝染病
- (四) 流産を主徴とする伝染病

六、アレルギー反応……………	二〇九
(一) ツベルクリン検査……………	
(二) マレイン検査……………	
七、血清学的反応……………	二一〇
(一) 凝集反応……………	
(四) 中和試験……………	
(二) 沈降反応……………	
(四) 赤血球凝集抑制試験……………	
(三) 補体結合反応……………	
第三節 病理解剖検査(剖検)……………	二二九
一、総則……………	二二九
二、外景検査……………	二三二
(一) 死冷……………	
(四) 腐敗……………	
(二) 死強……………	
(四) 天然孔……………	
(三) 死斑……………	
(六) 体表の損傷……………	
三、内景検査……………	二三三
(一) 皮下……………	
(四) 内臓付属リン結節……………	
(二) 腹腔……………	
(六) 骨髓……………	
(三) 胸腔……………	
(四) 膈……………	
(四) 消化管……………	
第四節 可検材料の採取及び送付法……………	二三八
第五節 病原検査……………	二五三

一、鏡檢……………	二三三
二、培養……………	二三七
三、動物接種……………	二四九
第六節 病理組織検査……………	二五一
一、固定……………	二五二
二、切片の調製……………	二五三
三、染色法……………	二五四
第七節 主要傳染病検査表一覽……………	二五八
第二章 糸狀菌性疾患の診断……………	
(小堀、進)	
第一節 糸狀菌性疾患の概念……………	二五七
一、形体及び繁殖の方法……………	二五七
二、病原性……………	二五八
三、免疫……………	二五八
四、分類……………	二五八
(一) 担子菌類……………	
(二) 子囊菌類……………	
(三) 不完全菌類……………	
(四) 藻菌類……………	
第二節 毛黴科……………	二五九

第三節	驚口瘡菌	二六〇
第四節	麴 黴 科	二六〇
一、麴	黴	二六〇
二、青	黴(屬)	二六二
第五節	不完全菌類	二六二
一、黃	癬	二六四
二、匍行	疹	二六四
(一) 小芽胞菌	(二) 髮外白癬菌	
(一) <i>Neo-endothrix trichophyton</i>		
第三章	寄生虫病の診断 (谷口 守男)	
第一節	寄生虫体検査法	二六六
一、驅虫後の排便による検査法		二六六
二、解剖による虫体の検査法		二六六
三、寄生虫の固定及び保存法		二六七
四、固定液、透明液及び染色液の処方と使用法		二六八
(一) 固定液	(二) 染色液	
(一) 透明化液		
第二節	虫卵及び仔虫の検査法	二七〇

一、糞便内の虫卵検査法	二七〇
(一) 塗抹法	(二) 集卵法
(一) 透化法	
二、血液内の仔虫検査法	二七三
(一) 新鮮血液検査法	(二) ヒラリア仔虫の蒐集法
(一) 高層染色標本	
三、喀痰及び尿内虫卵検査法	二七三
四、虫卵の保存及び永久標本作製法	二七三
(一) 虫卵の保存法	(二) 永久標本作製法
五、土壤内の線虫類仔虫の検査法	二七四
六、寄生虫卵の培養法	二七五
七、血液学的及び免疫学的診断法	二七六
(一) 血液学的診断法	(二) 免疫学的診断法
八、感染仔虫の検索法	二七六
九、鶏コクシジウム検査法	二七七
(一) オーチストの検出法	(二) コクシジウムの培養法
(一) 腸管内コクシジウム	(二) 鶏コクシジウムの比較
(一) コクシジウムの固定及び染色法	
(附) 寄生虫一覽表	二八一

第四章 檢血・檢便・檢尿（谷口守男）

第一節 血液検査法……………二八〇

一、血液像……………二八六

(一) 赤血球の病的変化……………(二) 白血球像の見方

(三) 白血球の性状……………

二、細胞学的検査法……………二九〇

(一) 採血法……………(二) 普通塗抹染色標本

(三) 赤血球の計算……………(四) 高層塗抹染色標本

(五) 白血球の計算……………(六) 赤血球の抵抗

(七) 血色素量の測定……………(八) 赤血球沈降反応

(九) 血小板の算定……………

(附) 血球一覽表……………二九五

第二節 糞便検査法……………二九八

一、肉眼的検査法……………二九八

(一) 量……………(二) 食物残渣

(三) 形状及び硬度……………(四) 脂肪

(五) 色調……………(六) 粘液及び組織片

(七) 反応……………(八) 血液及び膿

二、化学的検査法……………二九九

(一) 潜血反応……………(二) 胆汁色素

目次

(三) 寄生虫及び虫卵……………

第三節 尿検査法……………三〇〇

一、一般性狀検査法……………三〇〇

(一) 採尿法……………(二) 尿臭

(三) 尿量……………(四) 比重

(五) 色調……………(六) 反応

(七) 透明度……………

二、化学的検査法……………三〇二

(一) 蛋白質……………(二) 胆汁色素

(三) 葡萄糖……………(四) ウロビリノトゲン及びウロビリリン

(五) 無機磷酸……………(六) インジカン

(七) 血色素尿及び血尿……………(八) アセトン

三、顯微鏡的検査法……………三〇七

(一) 無機性沈渣……………(二) 有機性沈渣

第四節 穿刺液検査法……………三〇八

(一) 外觀……………(二) 滲出液と漏出液の鑑別

(三) リパルタ反応……………

第五章 内科臨床診断（桑原志都夫）

一一

第一節 循環器の検査……………三〇

一、心臓部の望診及び触診……………三〇

(一) 心鼓動……………(二) 心臓の聴診……………三〇

(二) 心臓の打診……………三〇

二、脈……………三六

(一) 脈数……………(二) 脈搏の關係……………三六

(二) 脈搏の性狀……………(三) 左右脈搏の不同……………三六

(三) 脈波……………三六

三、靜脈の検査……………三八

(一) 充盈狀態……………(二) 波動……………三八

四、血 圧……………三九

(一) 血圧測定法……………(二) 血圧の診斷的價値……………三九

(二) 血圧と循環系との關係……………三九

第二節 肺及び氣道の検査……………四〇

(一) 鼻漏……………(二) 肺の打診……………四〇

(二) 咳……………(三) 肺の聴診……………四〇

(三) 呼吸……………四〇

第三節 消化器の検査……………四〇

一、食 慾……………四〇

二、異 嚥……………四〇

三、腹部の検査……………四〇

(一) 腹部の視診……………(二) 腹壁の觸診……………四〇

四、腸の検査……………四〇

(一) 腸の外部検査……………(二) 腸の蠕動音……………四〇

(二) 腸の打診……………四〇

第四節 神経系の検査……………四二

一、反射機能……………四二

(一) 腱反射……………(二) 角膜反射……………四二

(二) 皮膚反射……………(三) 瞳孔反射……………四二

(三) 粘膜反射……………(四) 眼瞼反射……………四二

二、精神機能……………四二

(一) 精神沈鬱……………(二) 精神興奮……………四二

三、運動機能……………四二

(一) 不隨意運動……………(二) 運動麻痺……………四二

(二) 痙攣……………(三) 失調……………四二

(三) 強迫運動……………四二

四、知 覺……………四二

五、視 覺……………四二

(附) 動物用生物学的製剤……………四七

(小堀進)